

GL Sciences

第43期報告書

平成21年4月1日～平成22年3月31日



To Our Shareholders

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび、平成22年3月26日より、前取締役社長 森憲司の後任として取締役社長に就任いたしました外丸勝彦でございます。大変な重責を担うことになり、身の引き締まる思いではありますが、前社長が作られた経営理念を継承し、会社発展のために全力を尽くす所存でございますので、何卒ご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さてここに、当社第43期（平成21年4月1日～平成22年3月31日）の営業の概況につきましてご報告申し上げます。

当社は昭和43年の創立以来、森前社長の信念から、会社はどのような思想を持ち、実現していくかという、経営に対する姿勢、理念を「創立の根本精神及び経営理念」に掲げてまいりました。その中で創立の目的は、「同一の思想を持ち、信頼し合うことのできる人間が集まって、何かの仕事を通して、経済的無から一つの理想体を造りあげる事への挑戦」であると謳っております。

この「創立の根本精神及び経営理念」に基づき、当社は「社会に対し社会性を充分発揮してその存在価値を高め、社員個々の幸福を勝ち取り、企業の維持、発展をならしめること」を基本理念として、これまで活動を続けてまいりました。

当事業年度における業績につきましては、一昨年秋からの世界的不況の影響がさらに大きくなり、第2四半期累計時点では当社始まって以来の営業赤字となるなど大変厳しい状況で推移し、株主の皆様

はご心配をお掛けすることとなりましたことを心よりお詫び申し上げます。

しかしながら、グループをあげての経費節減対策効果や第3四半期以降の売上高回復により、期末決算においては経常利益を確保するまでに業績を改善することができました。

今後につきましても引き続き厳しい経営環境が予想されますが、お客様のニーズに合った製品の開発と効率的な営業活動を一層強化し、業績の向上を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年6月



取締役社長

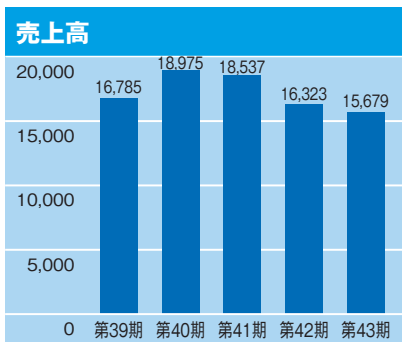
外丸 勝彦

外丸 勝彦（そとまる かつひこ）略歴

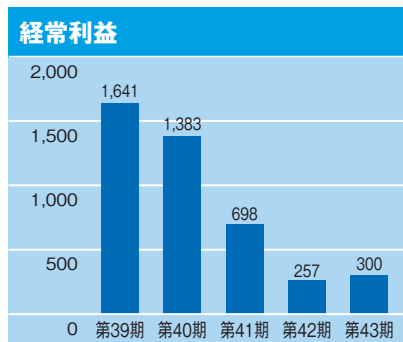
昭和19年生まれ、東京都出身
昭和43年3月 当社入社
平成12年6月 当社取締役福島工場長
平成14年6月 当社常務取締役生産本部長
兼福島工場長兼武蔵工場長
平成21年11月 当社代表取締役常務
平成22年3月 当社取締役社長

Financial Highlights

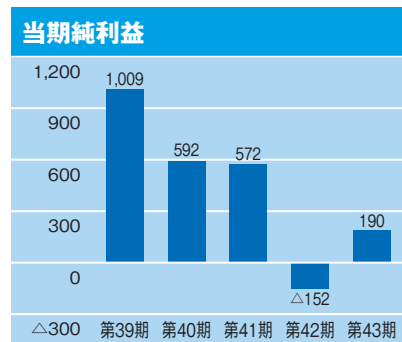
業績ハイライト(連結)



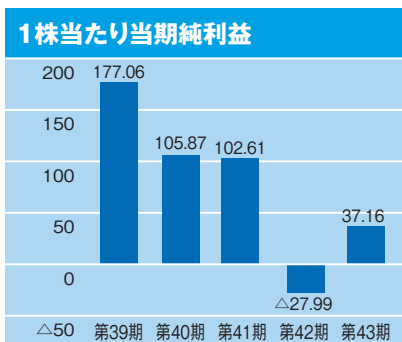
(単位:百万円)



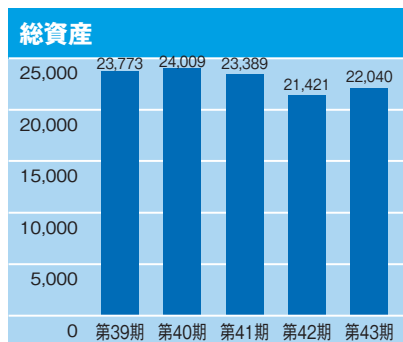
(単位:百万円)



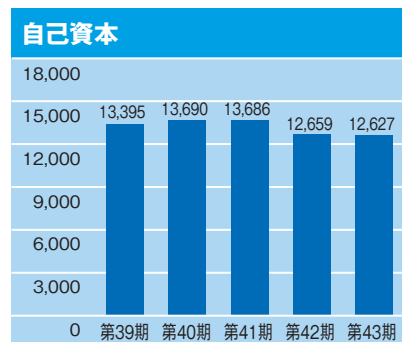
(単位:百万円)



(単位:円・銭)



(単位:百万円)



(単位:百万円)

	第39期 平成18年3月	第40期 平成19年3月	第41期 平成20年3月	第42期 平成21年3月	第43期 平成22年3月
売上高 (百万円)	16,785	18,975	18,537	16,323	15,679
経常利益 (百万円)	1,641	1,383	698	257	300
当期純利益 (百万円)	1,009	592	572	△152	190
1株当たり当期純利益 (円・銭)	177.06	105.87	102.61	△27.99	37.16
総資産 (百万円)	23,773	24,009	23,389	21,421	22,040
自己資本 (百万円)	13,395	13,690	13,686	12,659	12,627

■ 当期の概要

当連結会計年度における我が国経済は、一部では緩やかな回復傾向が見られるものの、一昨年秋からの世界的な不況により引き続き厳しい状況が続く、設備投資の抑制、雇用不安や個人消費の低迷など、景気の不透明感は継続しております。

分析機器事業におきましては、世界的不況の影響がさらに大きくなり、第1四半期から第2四半期にかけてかつて経験したことのない大幅な売上ダウンの影響のため、第2四半期累計まで営業赤字を解消することができませんでしたが、第3四半期から徐々に買い控え傾向が弱まり、第4四半期では予想以上の売上高となり、業績も回復してまいりました。

半導体事業におきましても、主力製品である半導体製造装置向けの消耗部材（石英・シリコン製品）への引き合いが継続し、1～3月の受注も第3四半期に引き続き好調に推移いたしました。

この結果、当連結会計年度の連結売上高は、15,679百万円（前連結会計年度比3.9%減）となりました。

利益につきましては、グループをあげた経費削減への取り組みや第4四半期の分析機器事業の売上高が予想以上に回復したこと、半導体事業ではシリコン電極などシリコン製品の売上が大きく伸びた結果、営業利益277百万円（前連結会計年度比13.7%減）、経常利益300百万円（前連結会計年度比16.6%増）、当期純利益190百万円（前連結会計年度 当期純損失152百万円）となりました。

■セグメント別概要

●分析機器事業

分析機器事業におきましては、メーカーとして積極的に自社製品の拡販活動を展開することに努めてまいりました。上半期は売上の急激な落ち込みをカバーできず営業赤字となりましたが、社内では経費削減、設備投資の一時凍結、お客様への顧客満足度を高めるセールスサポート作戦などを実施し、全社一丸となって業績の回復に努めました。下半期に入りその効果が徐々に始まり、当社の自社製品比率も前期よりわずかに改善し、通期では営業黒字に転換することができました。

この結果、売上高は11,236百万円（前連結会計年度比7.7%減）、営業利益は236百万円（前連結会計年度比59.1%減）となりました。

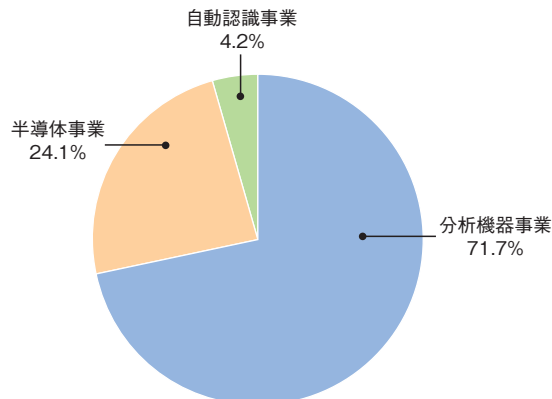
●半導体事業

半導体事業は海外向けを中心に引き合いが活発となり、受注高は前連結会計年度比58.0%増と大幅に増加し4,575百万円となり、売上高は前年同期を上回るまで回復しました。この結果、売上高は3,779百万円（前連結会計年度比8.3%増）、営業利益は30百万円（前連結会計年度は営業損失264百万円）となりました。

●自動認識事業

自動認識事業におきましては、セキュリティ機器分野では在庫調整の持ち直しの兆候が見られるものの、設備投資は振るわず、システム部門においては大型案件の棚上げ、デバイス部門においては、開発案件の凍結などと、予想以上にマイナス材料が重なり売上は前期をやや下回る結果となりました。この結果、売上高は663百万円（前連結会計年度比0.3%減）、営業利益は10百万円（前連結会計年度比51.6%増）となりました。

セグメント別売上構成比



■次期の業績見通し

分析機器事業では、当期に引き続きメーカー営業を推進し、自社消耗品「イナートファミリー」をはじめとする自社製品の拡販に努めてまいります。

最近の市場変化は激しく、新しい変化を迎える時期に入ったと認識しております。ここ数年の売上高の減少、固定費の増大などにより、企業の収益力が落ちてきており、プロジェクトチームの発足はもとより、有機的な組織体系への基礎固めを推進してまいります。

半導体事業は取引先とのネットワークを強化し、アジア市場の拡大や新興国市場の成長に即応したグローバル戦略を構築し、既存顧客からのリピートオーダーに満足することなく、新規取引先の開拓や既存取引先への更なる深耕等、販路の拡大を図りシェア拡大に全力で傾注し業績の拡大に努めてまいります。

自動認識事業は警備機器関連分野として住宅玄関錠「XR01シリーズ」をはじめとしたRFID技術を応用し、デジタルサイネージ（電子広告）分野や、大学関係向け情報端末分野などでも市場拡大が急速に進むものと予想しております。

平成23年3月期の連結業績及び単独業績の見通しにつきましては、それぞれ次のとおりです。

(連結業績の見通し)

売上高	17,425百万円（前連結会計年度比 11.1%増）
営業利益	626百万円（前連結会計年度比125.9%増）
経常利益	596百万円（前連結会計年度比 98.7%増）
当期純利益	362百万円（前連結会計年度比 90.2%増）

(単独業績の見通し)

売上高	13,050百万円（前期比 10.9%増）
営業利益	403百万円（前期比 43.4%増）
経常利益	403百万円（前期比 35.3%増）
当期純利益	239百万円（前期は当期純損失16百万円）

Approach to the Environment

環境への取り組み

当社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであり、環境負荷低減の取り組みが企業の継続および発展にとっても必要不可欠であることを認識し、環境保全に配慮した企業活動を通じてより良い社会の実現に貢献します。

■製品を通じた環境貢献

当社は特にクロマト関連の消耗品を多く取り扱っておりますが、環境に配慮した製品の開発・販売にも努力をしております。例えば下記に取り上げたような製品群を使用していただくことによって環境負荷を低減することができます。また、その販売数や既存製品に占める割合は増加傾向にあります。

- 従来の分析法では、前処理の段階で多量の溶媒を使用していたものを、当社の取扱製品である固相抽出カートリッジを使用した分析法に切り替えることにより、溶媒使用量の削減に貢献いたします。
- 液体クロマトグラフ（LC）の分析で使用するカラムにおいては、使用溶媒が少なく済むカラム内径の細い“セミマイクロLCカラム”や、使用溶媒が少なく、分析時間を短縮してエネルギーの削減に貢献する“ハイスピードセパレーションHPLCカラム”、および“MonoCap”など、環境に配慮した製品の販売に努力しております。

—固相抽出関連製品—



—環境にやさしいLCカラム—



分析機器事業

試料前処理 インストルメンツ&ソフト・パーツ

GCやLC（後述）の機器分析装置、特にGC/MS、LC/MSにおいての高感度化は、分析基準値の見直し要求に準拠し、近年数段の進展を見せております。その装置感度の向上に不可欠な技術が分析試料の前処理・濃縮導入技術になります。高感度分析装置に分析試料を導入する際、ターゲット成分の濃縮ができれば、分析可能な低濃度試料の領域が無限大に広がっていきます。

弊社のカスタマーサポート技術で構築した豊富な前処理メソッドを、分析オペレータおよび分析装置メーカーに提供しており、極めて高い評価をいただいております。環境水質基準検査法、水道水質基準検査法に盛り込まれた塩化ビニルモノマーを含むVOC（揮発性有機化合物）および農薬分析用に販売されている「AQUA PT5000J PLUS」・「アクアト्रेस ASPE799」は、引き続き重要な製品群として位置付けられております。

水質分析における試料前処理に有効な「固相加圧送液装置 AQUALoaderⅢ」を新たにラインアップし、さらなるニーズへの対応に心がけています。

装置販売に限らず、装置同様に高度の知見を必要とする消耗製品群で、弊社オリジナルブランド“イナートファミリー”の一つである「イナートセップ」は、多様化するニーズ・環境水質市場・食品市場をターゲットに、新製品を開発・発売し、一段の売上増を進めております。



固相加圧送液装置 AQUALoader®Ⅲ



前処理固相抽出カートリッジ InertSep®シリーズ

ガスクロマトグラフ インストルメンツ&ソフト・パーツ

ガスクロマトグラフ（GC）は、試料を気化して分離・定量する分析法で、ガス成分分析から溶剤等の気化しやすい成分群の分析に適しています。その特長により、素材等の成分分析から水質・大気・土壌等の環境分析に大いに利用されています。特に弊社製品は日本の環境行政に適応・貢献すべく、年々基準値が見直されている公定分析法にも迅速に対応しております。

弊社は、「GC-4000シリーズ」を発売後、周辺装置群にも力を入れ、省スペース化を実現したFIDエアークリーン装置「AOEシリーズ」、自動ガスサンプラー「GS5100シリーズ」のリニューアルを行いました。GC本体のラインアップ、その他周辺装置を充実させ、お客様のさらなるニーズをサポートしております。



FIDエアークリーン装置
AOE2700/AOE2300

自動ガスサンプラー
GS5100シリーズ



シリカモノリス捕集剤 MonoTrap®

また、香気成分をターゲットとし、食品・環境における簡易濃縮分析やスクリーニング分析用として、弊社が誇るモノリス技術を利用した「MonoTrap（モノトラップ）」にさらにTD（加熱脱着タイプ）を発売し、お客様のニーズに合わせた安価で手軽な濃縮分析を可能にしました。

弊社オリジナルブランド“イナートファミリー”の一つである「イナートキャップ」は、多くのラインアップを取り揃え、また、MonoTrapとのタイアップにより、安定した品質、供給で一段の売上増を進めております。

液体クロマトグラフ インストルメンツ&ソフト・パーツ

液体クロマトグラフ（LC）は、試料を液体の状態にて分離・定量する分析法で、GC分析ではカバーしきれない沸点の高い有機化合物の分析等に適しています。化合物の多くがLCに適しており、食品・製薬・バイオなどの分野で用いられています。研究施設に設備される分析機器導入伸び率もLC・LC/MS・LC/MS/MSはきわめて高く、需要層もバイオ・ライフサイエンス市場を筆頭に近年、高性能自動分析装置の需要が強く、弊社においてもその要求に応えられる装置を取り揃えております。

弊社では、LC分析の試料移送のキャリア流量に合わせて多種類の装置群を開発し、もっとも需要が多い汎用HPLC「GL-7400」や、高速・高分離・高感度を実現した一体型HPLC「LC800」を発売いたしました。

ハイスループットニーズに応える新製品「シリカモノリスHPLCカラム MonoClad」を発売しました。

さらに、弊社オリジナルブランド“イナートファミリー”の一つである「イナートシル」では、高耐圧微粒子カラム「Inertsil HPシリーズ」をラインアップしました。また、お客様の多様化するニーズにお応えするとともに、使いやすさを追求した、新世代HPLCカラム「Inertsil ODS-4」に続き、「Inertsil C8-4」を発売いたしました。



ハイスピードセパレーションHPLCシステム LC800



HPLCカラム Inertsil C8-4

自動認識事業

新製品XPC100シリーズ

弊社では従来より入退室管理に特化したXRC100シリーズを提供しており取扱企業やユーザに好評を得ております。昨今案件毎によるさまざまなカスタム仕様が求められることが増えてまいりました。中には入退室管理専用で作られたXRC100シリーズでは応えられないこともあります。

これらの要求に応えるべく開発されたのがXPC100シリーズです。XPC100はXRC100と似た外観を持っていますが、全く異なるコンセプトによって開発されたものです。Windows CEというOSを搭載した、ユーザやベンダによるプログラミングが可能な機器となっています。これによりさまざまな要求仕様にあわせたシステム設計が可能となり、ソリューションによる付加価値をうみだすことができます。昨年度は特定のSIベンダ経由である大学に向けて販売を行いました。今年度はよりさまざまな顧客へ向けて製品展開を図ってまいります。



OS搭載情報端末XPC100シリーズ

EzHandy XR03Uシリーズ

写真は、小型軽量で持ち運んで利用しカードやタグの読書きができるハンディリーダーです。FA関連や物流、流通分野への展開を進めております。現状では試験的な販売に留まっていますが、新たな市場開拓を推し進めております。



小型ハンディリーダーXR03Uシリーズ

XR01シリーズ

写真は、アクセスコントロール分野を中心に展開する壁付埋込型リーダーの代表格のXR01シリーズです。高性能なことに加えスタイリッシュなデザインが評判となり、確実に採用事例を増しております。



壁付埋込型リーダー
XR01シリーズ

Consolidated Financial Statements

連結財務諸表

●連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期 (21.3.31現在)	当期 (22.3.31現在)
資産の部		
流動資産	11,949	12,817
現金及び預金	3,148	3,494
受取手形及び売掛金	4,928	5,715
たな卸資産	3,614	3,232
繰延税金資産	174	309
その他	97	85
貸倒引当金	△ 14	△ 18
固定資産	9,472	9,222
有形固定資産	8,058	7,706
建物及び構築物	2,893	2,915
機械装置及び運搬具	1,324	1,152
土地	3,300	3,300
建設仮勘定	115	19
その他	425	317
無形固定資産	92	94
投資その他の資産	1,321	1,421
投資有価証券	627	757
その他	724	700
貸倒引当金	△ 31	△ 36
資産合計	21,421	22,040

	前期 (21.3.31現在)	当期 (22.3.31現在)
負債の部		
流動負債	4,703	6,111
支払手形及び買掛金	2,043	2,253
短期借入金	1,871	2,618
未払法人税等	144	209
未払消費税等	54	28
役員退職慰労引当金	—	251
賞与引当金	322	376
その他	266	373
固定負債	2,428	1,657
長期借入金	1,797	1,076
再評価に係る繰延税金負債	128	128
退職給付引当金	66	162
役員退職慰労引当金	237	64
繰延税金負債	7	—
その他	190	224
負債合計	7,131	7,769
純資産の部		
株主資本	13,145	13,077
資本金	1,207	1,207
資本剰余金	1,819	1,819
利益剰余金	10,599	10,558
自己株式	△ 481	△ 508
評価・換算差額等	△ 486	△ 449
その他有価証券評価差額金	△ 93	△ 32
繰延ヘッジ損益	△ 13	△ 51
土地再評価差額金	△ 346	△ 346
為替換算調整勘定	△ 33	△ 18
少数株主持分	1,631	1,643
純資産合計	14,290	14,271
負債純資産合計	21,421	22,040

●連結損益計算書

(単位：百万円)

	前期 (20.4.1~21.3.31)	当期 (21.4.1~22.3.31)
売上高	16,323	15,679
売上原価	11,324	10,804
売上総利益	4,999	4,874
販売費及び一般管理費	4,677	4,597
営業利益	321	277
営業外収益	112	107
営業外費用	176	84
経常利益	257	300
特別利益	0	5
特別損失	382	110
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△ 124	194
法人税、住民税及び事業税	210	198
法人税等調整額	84	△ 196
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△ 267	3
当期純利益又は当期純損失(△)	△ 152	190

●連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前期 (20.4.1~21.3.31)	当期 (21.4.1~22.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,920	1,025
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 673	△ 422
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 744	△ 250
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 17	10
現金及び現金同等物の増加額	486	363
現金及び現金同等物の期首残高	1,163	1,649
現金及び現金同等物の期末残高	1,649	2,013

●連結株主資本等変動計算書

当期 (21.4.1~22.3.31)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等					少数株主 持分	純 資 産 計 合
	資本金	資 余 金	利 余 金	益 余 金	自己株式	株主資本 合計	その 他 有 価 証券 評価 差 額 金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定		
平成21年3月31日残高	1,207	1,819	10,599	△ 481	13,145	△ 93	△ 13	△ 346	△ 33	△ 486	1,631	14,290
連結会計年度中の変動額												
剰余金の配当			△ 232		△ 232							△ 232
当期純利益			190		190							190
自己株式の取得				△ 27	△ 27							△ 27
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						60	△ 38		14	36	12	49
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△ 41	△ 27	△ 68	60	△ 38	—	14	36	12	△ 19
平成22年3月31日残高	1,207	1,819	10,558	△ 508	13,077	△ 32	△ 51	△ 346	△ 18	△ 449	1,643	14,271

Company Profile

会社の概況 (平成22年3月31日現在)

- 商号 ジーエルサイエンス株式会社
- 証券コード 7705 (東証第二部)
- 本社所在地 東京都新宿区西新宿六丁目22番1号
- 設立 昭和43年2月1日
- 資本金 1,207,795千円
- 役員

(平成22年6月24日現在)

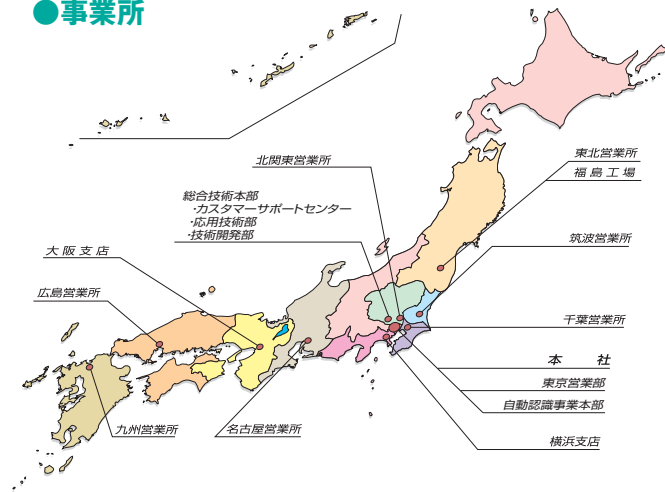
取締役社長 外丸 勝彦
常務取締役 高橋 良彰
取締役 大場 春祥
取締役 根生 辰男
取締役 橋詰 博文
常勤監査役 永井 博
監査役 田村 紀彦
監査役 加藤 靖正

- 従業員数 422名
- 主な事業

・ガスクロマトグラフィー／液体クロマトグラフィー
装置・前処理装置・部品・充填剤・分析カラム・固相・周辺機器
・分光光度計用セル、石英加工品
・半導体関連分析装置
・バイオ機器・部品
・非接触ICカード、リーダライタ
・その他すべての関連製品

- 関係会社
- テクノオーツ株式会社
株式会社グローブ
杭州泰谷諾石英有限公司 (中国)
ATAS GL International B.V. (オランダ)
GL Sciences, Inc. (米国)
島津技迹(上海)商貿有限公司

●事業所



●当社のホームページ <http://www.gls.co.jp>



●株式の状況

発行可能株式総数	22,380,000株
発行済株式の総数	5,130,169株 (自己株式464,831株を除く)
株主数	1,327名

●大株主（自己株式を除く）

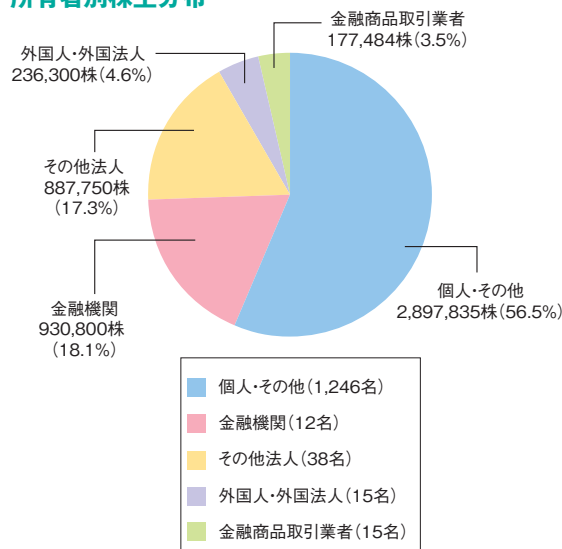
株主名	持株数	持株比率
ジーエルサイエンス従業員持株会	697,186株	13.6%
株式会社島津製作所	290,000株	5.7%
森 憲司	252,747株	4.9%
株式会社三菱東京UFJ銀行	249,100株	4.9%
株式会社山口銀行	248,000株	4.8%
東京中小企業投資育成株式会社	212,850株	4.1%
財団法人世界自然保護基金ジャパン	200,000株	3.9%
株式会社みなと銀行	182,000株	3.5%
山本昭一	170,050株	3.3%
矢部昭三	152,400株	3.0%

(注) 森憲司氏は、平成22年3月20日に逝去されましたが、現在遺産相続協議中のため、株主名簿上の名義で記載しております。

●所有者別株主分布（自己株式を除く）

順位	株主名	持株数	持株比率
1	個人・その他(1,246名)	2,897,835株	56.5%
2	金融機関(12名)	930,800株	18.1%
3	その他法人(38名)	887,750株	17.3%
4	外国人・外国法人(15名)	236,300株	4.6%
5	金融商品取引業者(15名)	177,484株	3.5%
	合計	5,130,169株	100.0%

所有者別株主分布



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
同総会議決権行使 株主確定日	毎年3月31日
期末配当金支払 株主確定日	毎年3月31日（中間配当は行っていません。）
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711（フリーダイヤル）
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.gls.co.jp (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。